

SEKONIC



printed in Japan

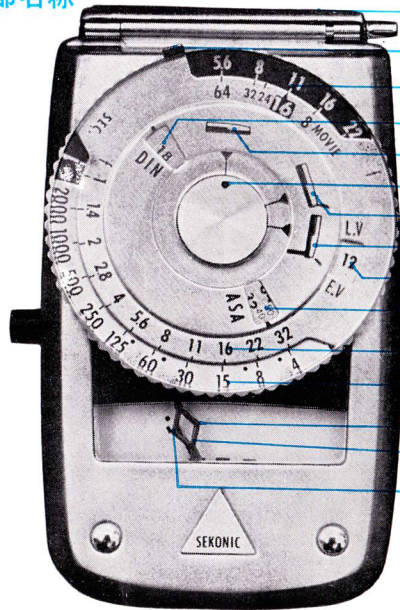


SEKONIC

AUTO-LEADER II model **99**

説明書

各部名称



- マルチフィルター
- ASA目盛合せツマミ
- シネ専用目盛
- DIN目盛
- 赤マーク(☐)
- 赤ポッチ
- 青マーク(☐)
- 黒マーク(☐)
- L.V目盛
- ASA目盛
- 絞り目盛
- シャッタースピード目盛
- ガイドマーク
- 指針
- ゼロポイント

受光部

マルチフィルター
押へノブ

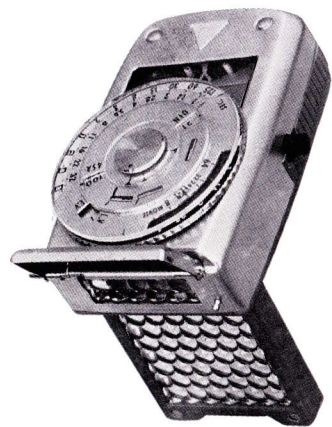


アンプ

アンプ開閉ノブ

ゼロ調節ネジ

メーターの簡単な使い方



測定する前に先ず貴方がカメラに入れたフィルムの感光度数値（SSなら100）を調べてASA窓にセットして下さい。次に透明ダイヤルを廻わしてダイヤルの中心にあります赤ポッチにマルチフィルターを閉じた時は□のマークを、開いた時には□を、マルチフィルターを開いてアンプを出した時には□のマークを合わせて下さい。

そして受光部を被写体に向けますと窓の中の指針が振れますから、外側のダイヤルを廻わしてガイドマークを指針の上に重ねます。これだけの操作で絞りとシャッタースピードが得られますから、被写体に応じた組合わせをカメラにセットすれば良いわけです。

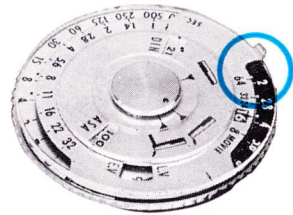
セコニックオートリーダーII型について

セコニック オートリーダーII型 Model 99は反射光線式三段切換でマルチフィルターの開閉により低照度と高照度が測定出来、しかも非常に暗い場合にも測定出来るようにオートアンプがビルトインされておりますから、測定可能範囲は極めて広くLV5～18迄測定出来ます。しかもガイドマークによる追掛け方式を採用しているために測定が非常に簡単な操作で出来る最も手頃な露出メーターです。

性能


- 反射光線式三段切換 オートアンプ内蔵
- 測定可能範囲 LV5（F1.4で $\frac{1}{5}$ 秒）～18
- ガイドマークによる追針式の採用
- ASA目盛 1～12,000
- DIN目 9～42
- 絞り目盛 F1～22
- シャッター目盛 8秒～ $\frac{1}{1000}$ 秒
- LV目盛 2～19
- シネ単独目盛付き

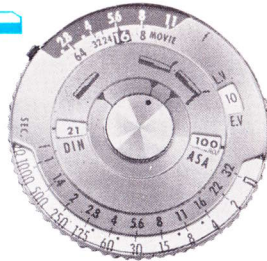
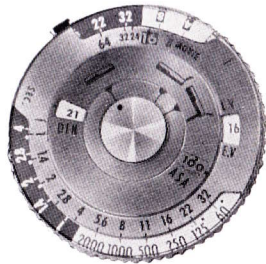
オートリーダーII型の使い方



測定する前に貴方がカメラに入れたフィルムの感光度数値をお調べ下さい。次に透明ダイヤルをおさえながらASAツマミを廻わして、ASA窓(DINをご使用の方はDIN窓)にその数値が直中に出る様に正しく合わせて下さい。フィルム感光度はフィルムメーカーによって種々異なりますが、普通S級ならばASA50、SS級ならばASA100です。なお同じフィルムでも太陽光の時と人工光の時では感光度の数値は違って参りますから、フィルムに同封さ

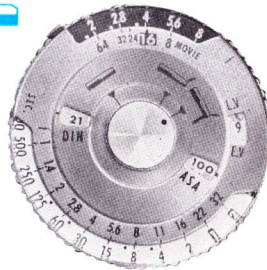
れている説明書をよくご覧になってから合わせて下さい。受光部を被写体に正しく向けますと(向け方は個々の場合について後の頁で説明いたします)その被写体に応じて指針が窓の中で振れます。


A. 被写体が非常に明るい場合はマルチフィルターを閉じて測ります。そのときマルチフィルターの上の赤色標示が出ますから透明ダイヤルを廻わしてダイヤルの中心の赤ポッチに赤色“”のマークを合わせます。次に一番外側のギザギザのついたダイヤルを廻わしますと窓




の中のガイドマークが動きますから振れている指針の上に丁度重なるようにいたします。これだけの操作で希望する絞りとシャッター(シネの場合は毎秒の駒数)の組合わせが自動的に得られますから、これらの組合わせから被写体に応じた絞りとシャッターの組合わせをカメラにセットすれば良いわけです。

B. マルチフィルターを閉じたまま、で指針が振れない様な暗い被写体の場合、マルチフィルターを開くと青色標示が出ますから、透明ダイヤルを廻わしてダイヤル中心の赤ポッチに青マ

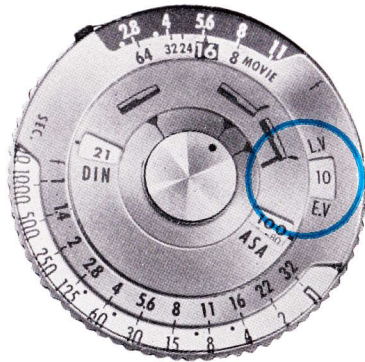


ク“”を合わせます。後は前と同様に外側のギザギザのついたダイヤルを廻わして、ガイドマークを指針に合わせればよいのです。

C. マルチフィルターを開いても指針が指れない様な非常に暗い場合には、マルチフィルターを開けたまま、本体左側にありますアンプ開閉ノブを押しますとアンプが自動的に出ますから軽く前に押して正しくアンプをセットして下さい次にダイヤル中心の赤ポッチに黒マーク“”を合わせて前と同じ方法で測定して下さい。

ライトバリュー

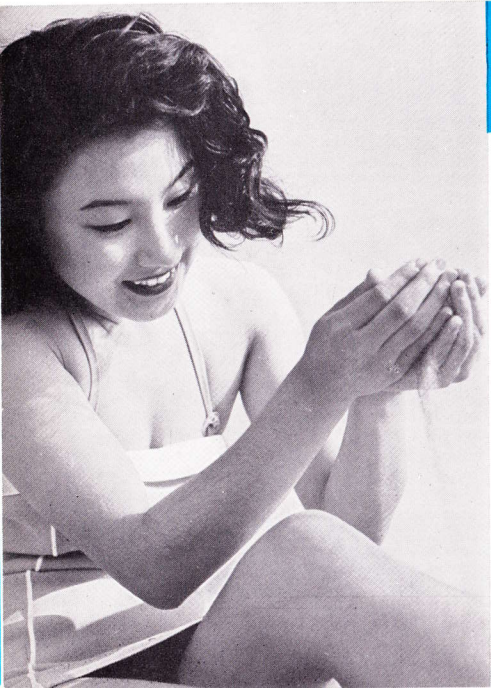
ライトバリューシステムのシャッター付カメラをお持ちの方はライトバリュー目盛で露出を決定されると非常に便利です。測定方法は普通と同じで、たゞ得られたライトバリュー数値をカメラにセットするだけです。即ち、ライトバリュー数値が**10**を示した時にはカメラのライトバリュー目盛の数値も**10**にセットして下さい。こうすれば被写体の状況によってカメラの絞りを**F 2**にすれば、シャッタースピードは自動的に $\frac{1}{250}$ 秒となり、また**F 2.8**に絞り込めばシャッタースピードは自動的に $\frac{1}{25}$ 秒にセットされます。反対にシャッタースピードの方を $\frac{1}{60}$ 秒にセットすれば絞りは連動して**F 4**になります。又 $\frac{1}{500}$ 秒に置きかえれば絞りは**F 1.4**に開きます。EVはエクスポージャー、バリューの訳でライトバリューと同じ意味であります。アメリカではライトバリューのことをエクスポージャー・バリューと呼んでいます。



カラー撮影について

カラー撮影に露出メーターはなくてはならないものです。モノクローム（白黒）フィルムはある程度のラチチュード（寛容度）もありますが、カラーフィルムはこれが極めて少なく、従って僅かの露出の過不足があっても美しい色は再現出来ません。カラー撮影の場合の測定方法はこれと云って特別にありませんが、たゞフィルムの感光度を指定通り（フィルムの説明書に書いてある通り）正確にセットすることだけであとはモノクローム撮影と全く同じです。カラー撮影の場合は普通明るい部分が露出の基準となります。また明暗のコントラストを光源の調節やレフの使用により、**1 : 4**以内にすれば更に美しい色調の富んだ写真を撮ることが出来ます。即ちカラー撮影の場合は特に被写体のライトバランスに注意して下さい。例へば人物を撮る場合はハイライトの部分の測って**F 8 · $\frac{1}{250}$ 秒**であったらシャドウの部分は**F 4 · $\frac{1}{250}$ 秒**以内の明るさがないとシャドウの部分の色は美しく出ません。このようにカラー撮影の場合には被写体の明暗コントラスト（ライトバランス）も露出と同様に注意して撮影すれば一層美しい写真を撮ることが出来ます。



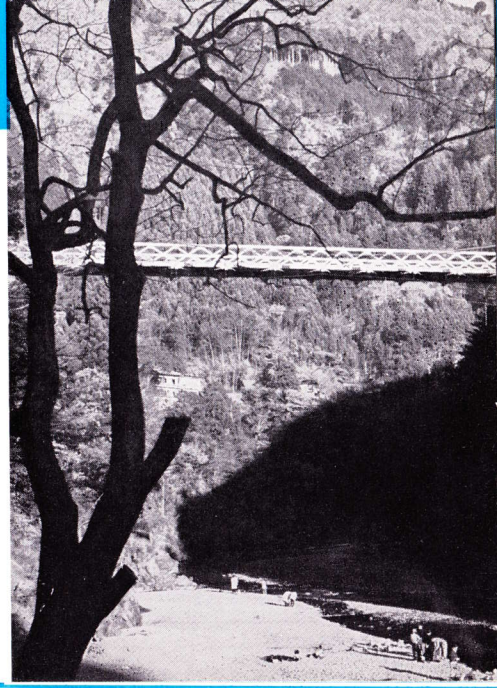


人物撮影の場合

カメラ位置からメーターの受光部を被写体に向けますと、被写体以外のバックの光、空の光、路面の照り反し等が受光部に入って来て適正露出は得られません。このため出来るだけ被写体のそばまで近寄り、被写体の反射光線（輝度）のみを正しく測定しなければなりません。この際被写体に約10cm位近づいて測ることがよく、特に自分が表現したい部分を測ります。この場合メーターの影が被写体の測定部分に入らないようにして下さい。人物撮影は特殊の場合を除いて最も大切な所は顔ですから顔の露出を測って下さい。また直接被写体に近寄れない場合には自分の手の平を被写体と同じ光線状態にして、メーターを10cm位離してその手の平を測るか、或は標準反射板を御使用下さい。

風景の場合

風景のように被写体に近寄れない場合にはカメラの位置から直接被写体、または目的の中心にメーターの受光部を向けたり、たゞ漠然と向けたのでは空からの光が受光部に入って来て露出不足となります。そのためメーターの受光部を地平線（陸と空の界や山や空の界等）と自分の足もとの中間に向けて測って下さい。しかしその風景が広く展開した風景であったり、また遠くの山々を写すような場合は前のようにして得られたメーターの指示通りではなく、その値を $\frac{1}{2}$ きりつめて下さい。それは空気光の影響で被写体の暗部が明るくなり被写体コントラストが低くなるからです。例へば F 11 で $\frac{1}{250}$ 秒 $\times \frac{1}{2} = \frac{1}{500}$ 秒となり F 11 の $\frac{1}{500}$ 秒が適正露出となります。



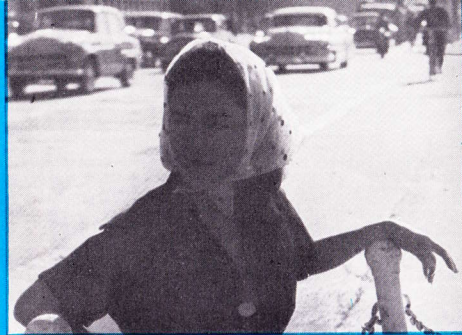
スナップの場合

ポートレートの場合と違いスナップ撮影では被写体は常に動いているものと考えてもよいでしょう。このような場合、例えば街頭などで良い被写体が見つかり早速メーターを取出して露出を測るべく被写体に近づいていったのでは良いスナップは撮れませんし、そうかと云って適正露出でなくては切角のナイスショットも台無しになってしまいます。こんな場合は撮影位置で風景と同じ測り方をして下さい。たゞ切りつめる必要はありません。スナップでもビルの谷間のような場所で被写体に空が入らないときには、メーター受光部を被写体の中心に直接向けて特に受光部を下に向ける必要はありません。スナップのように被写体に近寄れない時には代用測定するのの一つの方法です。その場合被写体によく似た色合をもつ物体にメーター受光部を向けて測りその露出値をカメラにセットしてスナップしても差支えありません。



例えば前に述べましたように、自分の手のひら等はスナップの時には非常に有用な役割を果してくれますが、出来れば標準反射板をご使用になればこれにこしたことはございません。しかし、代用測定される時には必ず被写体と同じ光線状態のもとで測定することに御注意下さい。人物を海岸や雪景色などの乱反射の多い場所でスナップするとき。スナップではいくら人物撮影と云えども近づいて測ることは出来ませんから、撮影位置からメーター受光部を被写体に向けて測ります。しかしその際メーターで得られた露出値の絞りを一段開けるか、或はシャッタースピードを一段遅くして下さい。例えば、F 8 で $\frac{1}{250}$ 秒で撮影して下さい。これは被写体を取り囲んでいるまわりの乱反射、(雪面や水面等の反射) から必要以上に強い光線が入ってくるのを補正するためです。

逆光の場合の測り方



A 被写体を逆光でシルエットにするとき

メーター受光部をバックの明るい空などに向けて測り、その指示通りで撮影して下さい。つまり露出はバックの明るい光線に合わされたわけですから、目的の被写体は露出不足となるため真黒なシルエットになります。

逆光のもとでの撮影には次のような写し方があり、その写し方によってメーターの測り方が違って来ます。



B 逆光下で被写体を描写するとき

メーター受光部を被写体の暗部に近づけて測るか、又は標準反射板を被写体と同じような光線状態にして測ります。この際バックの光（逆光線）がメーターに少しでも入らぬよう注意しなければなりません。



C 逆光下で被写体もバックも共に描写したいとき

メーター受光部を最初に被写体暗部に向けて測り、次にバックの明るさを測ります。バックの測り方は風景の場合と同じようにして下さい。この二つの方法によって得られた中間値で撮影して下さい。しかし被写体を測った値とバックを測った値とコントラストが1:16以上の時には両方の描写は困難です。



非常に暗い場所での測定方法

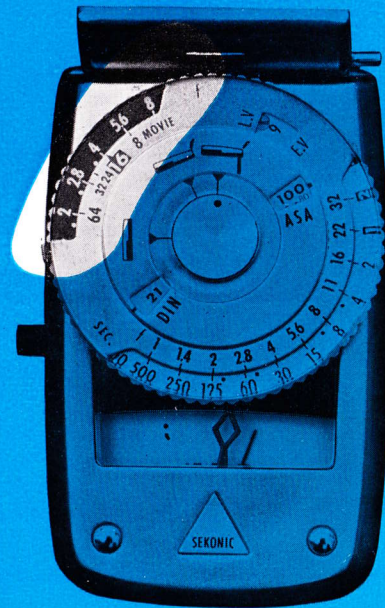
マルチフィルターを開けても指針が振れない様な場所ではアンプを出して測定して下さい。マルチフィルターを開けてアンプを出して測定した場合には前にも申し述べましたようにダイヤル中心の赤ポッチに赤マーク“—”を合わせてから、外側のギザギザのついたダイヤルを廻わして指針の振れた真上にガイドマークを重ねますと自動的に絞りとシャッターの組み合わせが得られます。

アンプを使っても指針が振れない場合には、被写体位置から直接光源にメーター受光部を向けて測って下さい。もし光源が二つも三つもある場合にはその中の主光源に向けて測りその指示通りダイヤルを合わせて得られた値を10倍にして下さい。

例へばF5.6で $\frac{1}{10}$ 秒ならば $\frac{1}{10} \times 10 = 1$ 秒になります。即ち、F5.6で1秒が求める適正露出となります。

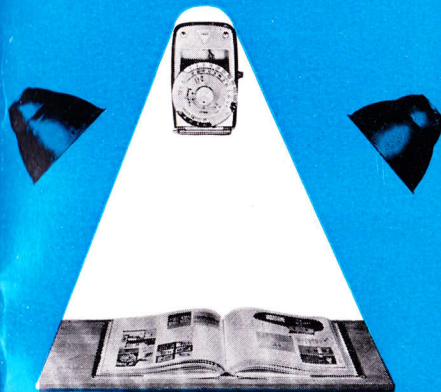
シネ撮影の場合

シネ撮影の場合の測り方は普通のカメラの場合と全く同じです。ただしシネカメラのシャッタースピードは普通のカメラのシャッタースピードと違って、1秒間に廻転速度が8・16・32・64と云うコマ数になっておりますから貴方のご使用になる撮影機のコマ数に組合わされた絞り値で撮影して下さい。シネ撮影のうち8ミリシネは、特殊撮影を除いて16コマ(約 $\frac{1}{30}$ 秒)が標準コマ数とされておりますから16コマの対向数値をシネの絞り値にして下さい。



セコニック標準反射板について

被写体の反射光線の明暗の平均を簡単に得るためには標準反射板を利用すれば便利です。標準反射板は反射率18%の無彩色に塗られているものですから、どんな状態の光線の場合でもその時の光線の18%より反射して来ませんから、いつでも標準の値、つまり平均した値が得られるわけです。この反射率18%と云うのは全ゆる被写体の反射率の平均をとったもので、明暗各種のコントラストがある場合には簡単に中間の値が得られます。使い方は標準反射板を被写体の面に正しく平行にして約10cmの間隔で反射光線式メーターで測り、その値をカメラにセットすれば良いわけです。カラー撮影の場合、カラーフィルムは白黒フィルムと根本的にその性質が異り反射率の違う各部分の色をそのまま発色させるわけですから、平均した値である標準反射板で測定した方が良い結果が得られます。



複写の測り方

書籍、文献等の複写の場合はその複写に接近して測りますが、まずメーターを複写物に10cm程測ります。その際複写物と受光部が平行になるようにして測って下さい。ただし指示された露出に対し複写するものが白い紙の場合には指示通り撮影して下さい。黒い部分が多い被写体は白い紙を置いて下さい。

接写の場合の露出の求め方

$$\text{実効絞り値} = \frac{\text{指示絞り値} \times \text{レンズとフィルムの距離}}{\text{レンズ表示焦点距離}}$$

静物、商業写真等をフォーカベルなどを使用して接写する場合は、反射光線式で測定して下さい。ただし露出メーターの指示通りではなく上記の式の通り補正しなければなりません。例へば焦点距離 50 mm、レンズとフィルム面が 100 mm、メーターの指示が F 4 で、 $\frac{1}{4}$ 秒だったとします。この場合上記の式で、実効絞り値は $\frac{4 \times 100}{50} = 8$ となり、F 4 に開けても実際には F 8 だけしか働いていないこととなります。従って露出は F 4 で 1 秒が適正露出となります。

フィルターを使用するとき

オートリレー II 型にはフィルター倍数目盛がついていませんから、まずメーターにより求めた露出に対して、フィルターメーカーが指示している露出倍数を掛けて撮影して下さい例えば Y 2 のフィルター露出倍数 2 倍の時、メーター指示が F 8、 $\frac{1}{250}$ 秒の場合には $\frac{1}{250}$ 秒 \times 2 = $\frac{1}{125}$ 秒となり F 8 $\frac{1}{125}$ 秒で撮影して下さい

ゼロ調整

メーターの受光部に光が入らないように完全に覆っても指針が0の位置から多少ずれることがあります。この場合受光面に光が少しでも入らぬように完全に覆って裏側のゼロアジャストネジを小さいドライバーで静かに右、または左に廻し、指針を正しく0の位置までもってゆくように調整して下さい。

露出メーター保存上の注意

1. 温気の多いところへ長い間放置しないようにして下さい。
2. 摂氏60度以上の高温を与えないようにして下さい。
3. 急な衝撃を与えないようにして下さい。
4. 長い間使用せずにしまっておく時は、革ケースより取り出し、桐箱等にシリカゲル（防湿剤）と一諸に保存して下さい。ただし金庫や金属の容器への保存は避けて下さい。

セコニックはアフターサービスに特に重点を置いておりますから、いつまでも安心してご使用になれます。本メーターのパッケージに同封してありますファンカードにそれぞれ記入事項をお書き込みの上、直ちに弊社サービス部宛お送り下さい。ファン名簿（登録台帳）に貴方のご氏名を記載の上早速登録通知書をお送り申し上げ、この日より一カ年の間メーターが自然に工合が悪くなりましたら無料で修理申し上げます。